(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2010-18899
(P2010-18899A)
(43)公開日　平成22年1月28日(2010.1.28)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A41D 13/00	(2006.01)	A41D 13/00	F	3B011

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 8 頁）

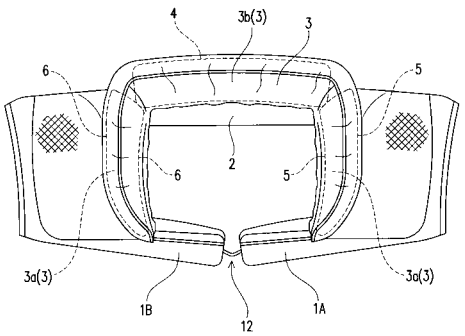
(21)出願番号　特願2008-178261 (P2008-178261)
(22)出願日　平成20年7月8日 (2008.7.8)

(71)出願人　000002439
株式会社シマノ
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地
(74)代理人　100074332
弁理士　藤本　昇
(74)代理人　100114421
弁理士　薬丸　誠一
(74)代理人　100114432
弁理士　中谷　寛昭
(74)代理人　100134452
弁理士　小山　雄一
(72)発明者　北脇　裕章
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】浮力材付き釣り用上着

(57)【要約】
【課題】　着用時のホールド感が良好であり且つ水中でも安定して頭部を支持することができるとともに、意匠性にも優れた浮力材付き釣り用上着を提供する。
【解決手段】　襟３に浮力材が備えられ、該浮力材が、左右方向に分かれた少なくとも３以上の部材で構成されたことを特徴とする浮力材付き釣り用上着による。好ましくは、前記浮力材は、襟３の左右方向中央に配される板状の中央部材４と、襟３の左右にそれぞれ配される板状の横部材５、６とを備え、前記中央部材４が前記横部材５、６よりも厚く形成されたものとする。
【選択図】　図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
衿に浮力材が備えられ、該浮力材が、左右方向に分かれた少なくとも３以上の部材で構成されたことを特徴とする浮力材付き釣り用上着。
【請求項２】
前記浮力材が、衿の左右方向中央に配される板状の中央部材と、衿の左右にそれぞれ配される板状の横部材とを備え、前記中央部材が前記横部材よりも厚く形成されていることを特徴とする請求項１記載の浮力材付き釣り用上着。
【請求項３】
前記横部材の先端部分が先細り形状であり、該横部材を収納することによって前記衿の上端縁が前方に向かって下方へ落ち込んだ形状となっていることを特徴とする請求項２記載の浮力材付き釣り用上着。
【請求項４】
前記中央部材が、前記衿の後面全域を占めるように形成されていることを特徴とする請求項２又は３に記載の浮力材付き釣り用上着。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、浮力材が備えられた浮力材付き釣り用上着に関する。
【背景技術】
【０００２】
釣りをする際には、落水時の安全を確保する等の観点から、フローティングベストと称される浮力材付き釣り用上着を着用することが好ましい。釣りをする際に着用するものであるため、該フローティングベストは、単に落水時の安全を確保するのみならず、着用者が釣りをするための種々の動作を阻害しないような構成する必要がある。
該フローティングベストは、一般に、前身頃や後身頃の内部に、ＰＶＣ、ＥＶＡ、ＮＢＲ、ＰＥなどからなる板状の浮力材が収容された構成となっているが、さらに、これら前身頃や後身頃に加え、衿の内部にも、板状で長細く形成された一体形状の浮力材が収容された構成の、いわゆる枕付きフローティングベストも提案されており、このような枕付きの場合には、水中で頭部が支持されるために着用者の体力消耗が抑制されるという効果がある。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、従来の枕付きフローティングベストにおいては、水中において頭部を浮揚させるための浮力を大きくするべく分厚い浮力材を収納した構成とすると、該浮力材の剛性によって衿が湾曲しにくくなり、その結果、衿が全体として丸みを帯び、しかも上方が外側へと広がった形状となるため、意匠性に欠けるものとなってしまうのみならず、着用者にとってはホールド感の乏しいものとなる傾向にあった。
また逆に、意匠性を重視して薄型の浮力材を収納した構成とすると、水中での浮力が減少して頭部を安定して浮揚させる作用が低下してしまい、また、転倒時における頭部の保護機能も低下してしまうこととなる。
【０００４】
また、従来のように板状で長細く形成された一体形状の浮力材が衿の内部に収納した構成とすると、該浮力材は衿の形状に沿うよう全体的に湾曲した形状となるが、浮力材がこのように全体的に湾曲した状態となると、該浮力材を覆う表地にも全体に皺が入りやすく、このような点からも意匠性という点で好ましくない傾向にあった。
【０００５】
そこで本発明は、着用時のホールド感が良好であり且つ水中でも安定して頭部を支持することができるとともに、意匠性にも優れた浮力材付き釣り用上着を提供することを課題

とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明の浮力材付き釣り用上着は、襟に浮力材が備えられ、該浮力材が、左右方向に分かれた少なくとも３以上の部材で構成されたことを特徴としている。
襟に備えた浮力材が、左右方向に分かれた少なくとも３以上の部材で構成されていることにより、襟はこれら部材同士の境目で湾曲しやすくなるため、該襟は上方が外側へ開きにくくなる。また、該襟が湾曲しやすくなることによって頭部のホールド性が高まり、水中において着用者の頭部をより確実に浮揚させることができる。
【０００７】
また、前記浮力材を、襟の左右方向中央に配される板状の中央部材と、襟の左右にそれぞれ配される板状の横部材とを備えたものとし、前記中央部材が前記横部材よりも厚く形成されるようにしてもよい。
前記浮力材が板状の中央部材と板状の横部材とを備え、前記中央部材が前記横部材よりも厚く形成されるようにしたことにより、斯かる構成の浮力材を収納した襟は、厚みの大きな中央部分で浮力を増大させるとともに厚みの小さな横部分では湾曲されやすくなり、頭部のホールド性と意匠性、並びに水中での頭部浮揚作用をより一層向上させることができる。
【０００８】
また、前記横部材の先端部分を先細り形状とし、該横部材を収納することによって前記襟の上端縁が前方に向かって下方へ落ち込んだ形状となるようにしてもよい。
このように、襟の上端縁が前方に向かって下方へ落ち込んだ形状とすることにより、着用者が顔を左右方向に向ける際に、襟が邪魔になりにくいという利点がある
【０００９】
また、前記中央部材を、前記襟の後面全域を占めるように形成してもよい。
前記中央部材が襟の後面全域を占めるように形成されていると、該襟の後部は後身頃を上方へ延長させたような丸みの少ない形状となるため、上述のようなホールド性と水中での浮揚作用を確保しつつも、意匠性がより一層向上するという利点がある。
【発明の効果】
【００１０】
このように、襟に備えた浮力材が、左右方向に分かれた少なくとも３以上の部材で構成されたことにより、襟はこれら部材同士の境目で湾曲しやすくなり、上方が外側へ開きにくくなって意匠性が向上する。また、該襟が湾曲しやすくなることによって頭部のホールド性が高まり、水中において着用者の頭部をより確実に浮揚させうるという効果がある。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１１】
図１乃至図３に、浮力材付き釣り用の上着の一実施形態である袖なしの上着であるベストを示しているが、袖のある上着であってもよい。このベストは、例えば磯釣りの際に装着されるフローティングベストとして使用されているが、波止釣りや船釣り等で使用してもよい。
【００１２】
前記ベストは、上着本体を構成する前身頃１と、この前身頃１の左右両端に連結される後身頃２と、該上着本体の上部に連結される襟３とを備えて構成されている。
本実施形態では、襟３は、上着本体の上方首周りに沿って設けられた襟取付用スライドファスナー（図示せず）により、上着本体の上部に着脱自在に連結されており、該襟３を取り外すことによって、襟のないベストとしても使用しうるように構成されているが、本発明は該実施形態に限定されず、襟が上着本体に縫製されたものであってもよい。
【００１３】
前記前身頃１は、左前身頃１Ａと右前身頃１Ｂとを備え、それら左前身頃１Ａと右前身頃１Ｂそれぞれの内部に、浮力材７を備えさせている。これら左前身頃１Ａ及び右前身頃

１Ｂの左右方向中心部側端に備えさせたベスト着脱用スライドファスナー１２を開閉操作することで身体にベストを着脱することができるようになっているが、他の構成であってもよい。つまり、前記ベストは、前記ベスト着脱用スライドファスナー１２にて着脱できる構成であるが、他の開閉手段を用いてもよいし、又、開閉手段を無くした構成、つまり頭から被って着るようなベストであってもよい。

【００１４】

前記襟３は、袋状に構成された表地の内部に浮力材を収納した構成となっており、該襟３の背面には、浮力材取出し用スライドファスナー８が設けられ、浮力材が取出し自在となっている。

襟３の内部に収容された浮力材は、襟３の周方向（着用者の首周りに沿った方向）において複数に分かれた構成となっており、本実施形態では、襟３の中央に配される中央部材４と、襟３の左右にそれぞれ配される２つの横部材５、６とからなる３つの部材により構成されている。

【００１５】

図４（ａ）及び（ｂ）は、これらの浮力材を襟３の内部から取り出して展開した状態を示したものである。該図４に示すように、これら３つの部材、中央部材４、横部材５、６は、メッシュ状の収納袋１０に区画された状態で収納されている。この収納袋１０は、メッシュ状の生地をそれらの外周縁を内折りにして重ね合わせて縫着することによって袋状に構成したものである。そして、隣り合う部材間、即ち、中央部材４と横部材５、６との間でこのメッシュ状の生地を糸１１にて縫い付けることによって、３つの部材４、５及び６を別々に仕切った状態で収納することができるようになっているが、他の方法であってもよい。

【００１６】

図４（ａ）及び（ｂ）に示すように、浮力材は、それぞれ板状の部材で構成されている。中央部材４の平面形状は概ね矩形状であるが、横部材５、６の平面形状は左右方向外側へ行くにつれて上端縁５ｂ、６ｂと下端縁５ｃ、６ｃとが次第に近接し且つ下方へ垂れ下がったような先細り形状となっている。つまり、中央部材４との隣接部分では、中央部材４の高さＴ４と横部材５、６の高さＴ５、Ｔ６とは略同じとなっているが、左右方向外側へ行くにつれて横部材５、６の高さＴ５、Ｔ６は漸減し、その先端部５ａ、６ａでは、上端縁５ｂ、６ｂと下端縁５ｃ、６ｃとが交わる（最も先端では、多少丸みを帯びた状態）ようになっている。

【００１７】

また、これらの浮力材の厚みは、図４（ｂ）に示すように、中央部材４の厚みＤ４を最も厚くなる寸法（例えば３０ｍｍ）にし、横部材５、６の厚みＤ５、Ｄ６を中央部材４の厚みＤ４よりも薄くなる寸法（例えば２５ｍｍ）にしているが、これらの寸法に限定されるものではない。尚、図４（ｂ）では、寸法関係が明確になるように実際の厚みよりも大きな差を付けて３つの部材４，５，６を描いている。

横部材５、６の厚みＤ５、Ｄ６が、中央部材４の厚みＤ４よりも薄くなるような寸法で形成されていると、中央部材４と比べて該横部材５、６の剛性が低くなり、このような横部材５、６を収納した襟３の側部３ａは、上着本体の襟ぐりに沿って変形されやすくなるという利点がある。

【００１８】

図５は、これらの浮力材４、５、６を前記襟３の内部に収納した際の、浮力材の状態を示した図である。該図５に示すように、横部材５、６の平面形状が上記のような先細り形状となっていることにより、斯かる横部材５、６を襟３の内部に収納すると、その上端縁５ｂ、６ｂは前方へ行くにつれて襟ぐり（即ち、襟３の付け根）に向かって垂下するような状態となるため、着用者が顔を左右方向に向ける際に、襟３が邪魔になりにくいという利点がある。

【００１９】

さらに、前記中央部材４は、図３に示すように、襟３の後部３ｂの略全域を占めるよう

に形成され、前記横部材５、６は、襟３の両側に位置する側部３ａの略全域を占めるようにそれぞれ形成されている。言い換えると、襟３の内部にこれらの浮力材が収納された際に、前記中央部材４と前記横部材５、６との境目が、襟３の後部３ｂと側部３ａとの間に他の部分よりも大きく湾曲した、いわゆるエッジを形成するように構成されている。

このような構成により、該襟３は全体として丸みを帯びた形状を有する従来の襟とは異なり、後部３ｂが後身頃２を上方へ延長させたような丸みの少ない形状となりつつ、側部３ａは襟ぐりに沿って前方へ向きやすくなり、頭部のホールド性がより一層向上したものとなる上、意匠性も向上する。しかも、横部材５、６は中央部材４の両端縁４ｅに当接した状態で襟３の内部に収納されることとなるため、該横部材５、６の厚みＤ５、Ｄ６が薄く形成されていても、厚みＤ４が大きく剛性の高い中央部材４に支持されることによって該横部材５、６が傾きにくくなるという利点がある。

【００２０】

襟３の外側を構成する生地は、後身頃等の表地と同じ生地から構成することにより、上着本体と同様の機能を持たせることができ、意匠性にも優れたものとなる。また、その一部又は全部を通気性のよいメッシュ状の生地から構成することによって、高い通気性を確保するように構成することもできる。

【００２１】

尚、上記実施形態では、襟に備えられた浮力材は３つの部材から構成され、且つ左右対称に配置されていたが、この浮力材を４つ以上の部材から構成するようにしてもよく、また、左右非対称に構成してもよい。従って、例えば、図６（ａ）に示すように、左右方向に分かれた５つの部材４１、５１、５２、６１、６２から構成するようにしてもよい。

また、上記実施形態のように横部材の先端部を先細り形状とはせず、中央部材と同様の高さを有する形状としてもよく、或いは、図６（ａ）に示すように、先端部の形状を、先端が垂直な端面となるように形成してもよい。

【００２２】

さらに、上記実施形態では、中央部材４の平面形状が矩形状となるように形成されていたが、本発明はこのような実施形態には限定されず、矩形状以外の任意の形状とすることができる。従って、例えば、図６（ｂ）に示した中央部材４２の如く、平面形状を台形状としたり、図６（ｃ）に示した中央部材４３の如く、平面形状を逆台形状とすることができる。この場合、襟３内では中央部材と横部材とが圧接された状態となるため、中央部材の左右方向両端縁によって、横部材の立ち角度を調節する作用を発揮させることができる。具体的には、図６（ｂ）に示した中央部材４２の如く、左右方向両端縁４２ｅを上方に向かって狭まる形状とすると、これによって横部材５３、６３を、上方が内側へ向くように方向付けすることができ、逆に、図６（ｃ）に示した中央部材４３の如く、左右方向両端縁４３ｅを上方に向かって広がる形状とすると、これによって横部材５４、６４を、上方が外側へ向くように方向付けすることができる。

【図面の簡単な説明】

【００２３】

【図１】釣り用上着の正面図である。

【図２】釣り用上着の背面図である。

【図３】釣り用上着の上面図である。

【図４】（ａ）は襟から取り外した収納袋入りの浮力材を展開して示した平面図であり、（ｂ）は図（ａ）におけるＡ－Ａ線断面図である。

【図５】襟の内部に収納された際の浮力材の状態を示した斜視図である。

【図６】（ａ）～（ｃ）は襟に収納する別の浮力材の正面図である。

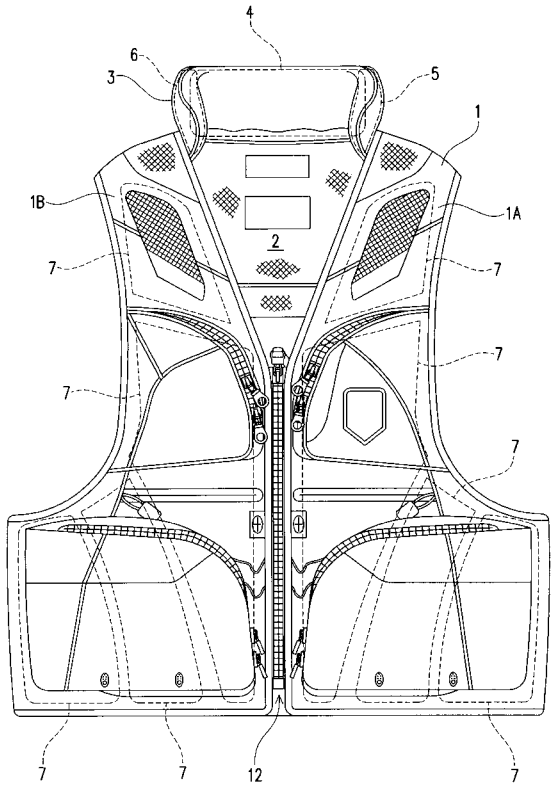
【符号の説明】

【００２４】

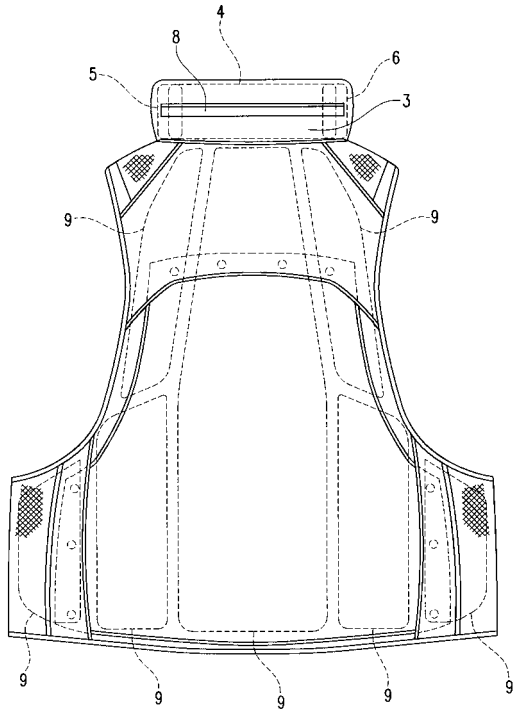
１・・・前身頃、１Ａ・・・左前身頃、１Ｂ…右前身頃、２・・・後身頃、３・・・襟、４・・・中央部材（浮力材）、５，６・・・横部材（浮力材）、４ｅ・・・端縁、５ａ・・・先端部、５ｂ・・・上端縁、５ｃ・・・下端縁、６ａ・・・先端部、６ｂ・・・上端

縁、６ｃ・・・下端縁、７・・・浮力材、８・・・浮力材取出し用スライドファスナー、９・・・浮力材、１０・・・収納袋、１１・・・糸、１２・・・ベスト着脱用スライドファスナー、４１，４２，４３・・・中央部材（浮力材）、５１，５２，５３，５４，６１，６２，６３，６４・・・横部材（浮力材）、Ｄ４，Ｄ５，Ｄ６・・・厚み寸法、Ｔ４，Ｔ５，Ｔ６・・・高さ寸法

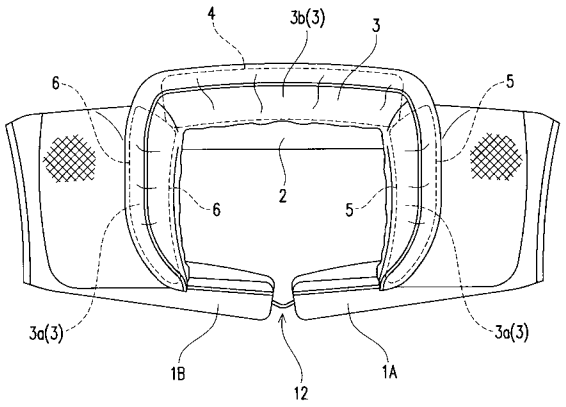
【図１】



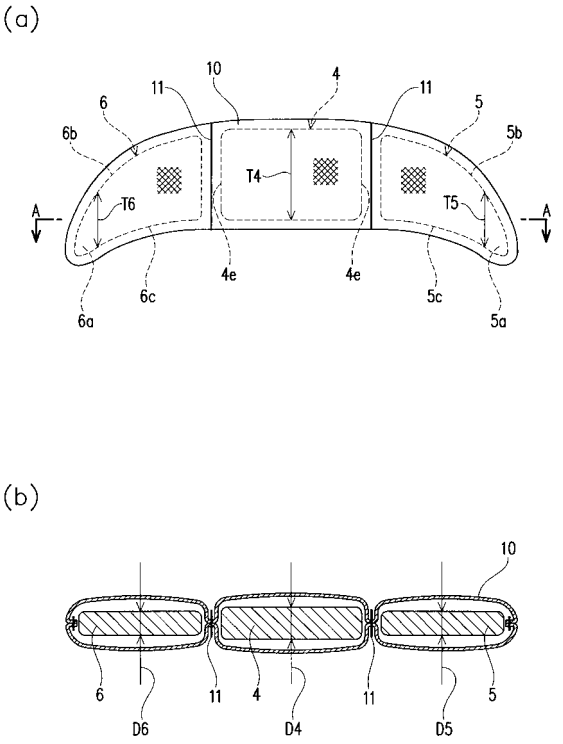
【図２】



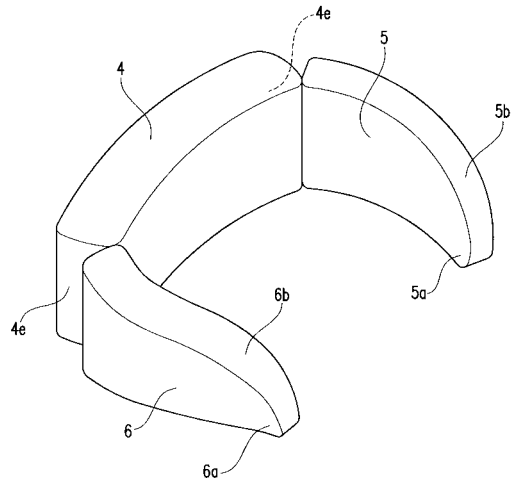
【図３】


4
3b(3)
3
6
5
6
2
5
3a(3)
3a(3)
1B
12
1A

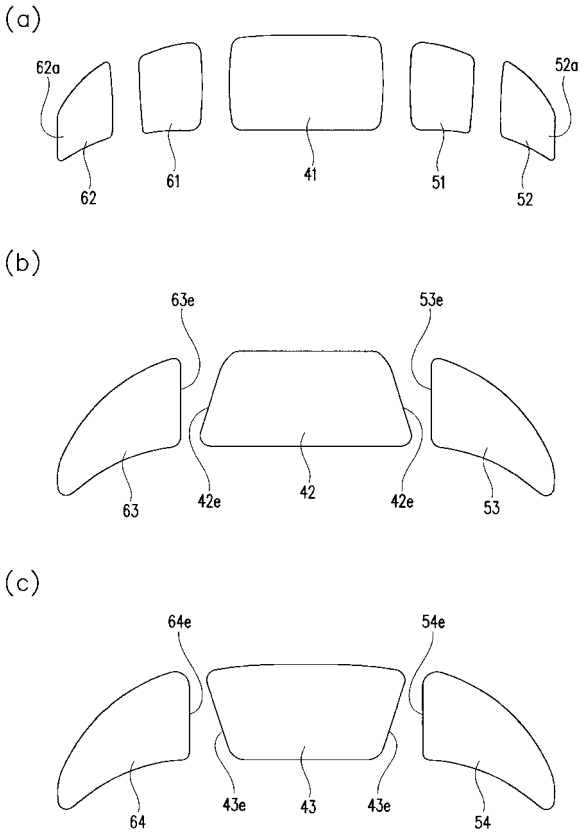
【図４】


(a)
10
11
4
11
6
5
6b
5b
T4
T6
T5
A
A
4e
4e
6a
6c
5c
5a
(b)
10
6
11
4
11
5
D6
D4
D5

【図５】


4e
5
4
5b
4e
6b
5a
6
6a

【図６】


(a)
62a
52a
62
61
41
51
52
(b)
63e
53e
63
42e
42
42e
53
(c)
64e
54e
64
43e
43
43e
54

フロントページの続き

(72)発明者　白石　万里子
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内

Ｆターム(参考) 3B011 AA01　AB15　AC10